

# 『われらのうた』 総目次

川口隆行・山本昭宏

広島文学サークル誌『われらのうた』は、一九五四年十一月に創刊され、一九六三年六月、第五十六号で終刊した。本稿はこの『われらのうた』の総目次を記録するものである。

峠三吉が中心となって発刊した、サークル誌『われらの詩』<sup>うた</sup>は、五〇年代前半、とりわけ朝鮮戦争期における広島文学、文化活動のひとつの拠点であった（一九四九年十一月から一九五三年十一月まで二十号を発刊。ただし第七・八号は合併号）。峠の死後、『われらの詩』の有力メンバーであった増岡敏和が主導して、「われらのうたの会」を結成、雑誌『われらのうた』を創刊した。第一号（一九五四年十一月）冒頭では、「『われらのうたの会』は「原爆詩集」の故峠三吉氏の「われらの詩の会」の意思をつぐもので、その最終号20号まで五カ年の運動の生命に生きるものであります。」と宣言し、続けて峠夫人のエッセイを掲載したことから伺えるように、『われらの詩』の後継誌であることを高らかに標榜してのスタートであった。

『われらのうた』もまた『われらの詩』と同様に、広島を拠点にしてきたが、積極的に全国の文化運動、平和運動と協同することと運動の広がり志向した。うたごえ運動や生活記録運動に連

なり、誌面では原水爆禁止世界大会への参加が訴えられた（「われらのうたの会」と全国的なうたごえ運動との関係については、道場親信「原爆を許すまじ」と東京南部——50年代サークル運動の「ピーク」をめぐるレポート」（『原爆文学研究』第八号、二〇〇九年十二月）を参照されたい）。一方、作品の質を高めるための合評会、読書会も盛んに行われ、多くの表現者を育てていった。広島にとどまらず、全国の文化運動、平和運動の動向を考える上で、『われらのうた』は極めて高い資料価値を有していると考えられる。『われらのうた』は、サークル論を喧々諤々繰り広げながら、およそ八年半の間、粘り強く継続された。戦後文化運動の盛衰を考えるうえでも、重要な媒体といえよう。

「原爆文学研究」という立場からいえば、とりわけ見逃せないのは、同誌がほぼ毎年夏に「原爆詩特集」を行い、被爆体験の主題化を積極的に導いていったことであろう。『われらのうた』には、みずから被爆体験を有する者、あるいは、近親者を原爆で亡くした者なども少なくなつた。特集を含め、多くの号に掲載された原爆詩や記録の数々は、市井に生きる人々の様々な原爆観、その表現への定着を知る上でも興味深い。

峠三吉による『われらの詩』については、本誌第八号に水島裕雅氏、宇野田尚哉氏の論考、第九号に黒川伊織氏の論考がある。また、宇野田氏を世話人とし、川口・山本も参加している『われらの詩』研究会では、近い将来の復刻を目指しながら、詳しい調査・検討を進めている最中である。それに比べると、『われらのうた』はまだまだ明らかになっていないことが多く、今後の調査・研究のためにも、総目次を作成した。

なお、総目次の作成は、同誌の会員で増岡敏和上京後に編集の中心を担われた、寺島洋一（島陽二）氏提供の原本によっている。寺島氏からは、作業の過程で貴重な証言をうかがうこともできた。特に記して感謝申し上げたい。

（川口・山本）

#### 凡例

一、本総目次は、「われらのうた」所収の文章を掲載された順序で作成したものである。

一、各項目は、基本的に分類、標題、著者名、掲載頁の順で記した。掲載が二頁以上にわたる場合は、開始頁―終了頁としている。別の頁に飛ぶ記事については、読点に続けてもう一つの頁数を記した。特集については、特集名を記載したあと、一字分を下げて標題以下を、連続して記した。

一、表紙裏、裏表紙裏に頁番号がある場合も、「表紙裏」「裏表紙裏」の記載を加えた。頁番号がないものには（ ）で表記した。

一、分類は、本文表記に従った。ただし、本文にない場合は目次に抛り、目次にもない場合は、編者の判断で付した。

一、標題・著者名は、本文表記に従った。ただし、本文に無い場合や明らかな誤記と考えられるものは目次に抛った。著者名はあえて表記の統一をはかっていない。

一、仮名遣いは原文のままとし、旧漢字は新漢字に、異体字は正字に改めた。

一、広告、案内等も原則として記載している。ただし、一、二行

程度の短いものについては、省略した場合もある。

一、\*印は編者による注記である。

#### 発行所

第一号は、教育会館内山本和美気付。第二号は、教育会館内鵜飼和美気付。第三号から第四十一号は、平和書房内われらのうたの会。第四十二号から第五十六号は、宇品電報局内われらのうたの会。

#### 編集代表者

第一号から第十八号は、いげきみちお（増岡敏和）。第十九号から第四十一号は、下畠諄三。第四十二号から第五十六号は、増原正。

#### 表紙絵

第五号は、まさ子（吉田まさ子）。第六号は、ルーベンス（扇一郎）。第七、八、九、十号は、扇一郎。第三号、第十一号は、不明。残りの号はすべて四国五郎。

第一号 一九五四年十一月一日 発行

表紙

(\*巻頭言) 出発に際して―何より元気で―

目次

詩 ラヂオのあかり

峠加代子

表紙裏  
表紙裏

受贈誌紹介

詩 九州のうたごえ

石川武彦

みぞれの暁

住屋とき子

誕生日

はやみ・ちかこ

いつまでも

福本京子

私立呼吸器科病院より

山上博

自由泥棒

いわむらひろし

映画と演劇 鑑賞の上に眠ていられない

大月洋

詩 秋

きし・ぼんじ

二十四の瞳は抵抗の映画である

津川勇

詩 こごと

山縣勝

感想 映画「二十四の瞳」をみて

佐々木裕子

詩 つぶやき

大北芳栄

孤りの座

深川宗俊

明るむ窓

泉博雄

父の死

山本和美

メモ

吉川清

時評 久保山氏の死と原爆被害者

竹屋百合子

詩 花と伝票

山本和美

父と兄

島山祥平

二つの職場

島山祥平

(\*広告) 峠三吉追悼集「風のように 炎のように」  
詩 ある夏の出来事 友田智代 21

しるせしもの

磨玲

(\*紹介) サカイ・トクゾー詩集「平和のなかで」

詩 まち

吉田とよきち

「平和新聞」ありがとう

中野生

台風

黒谷孝子

铸件工のうた

赤木明彦

李徳全女子歓迎

増岡敏和

たくましい労働者の詩

森鳳明

シナリオ(放送劇) 百姓

植野浩

詩 夕空

新田素子

世は歌につれ 歌は世につれ(「詩運動」第七号より転載)

関鑑子

お願いやら訴えやら、後記やら、原稿募集、奥付

裏表紙裏

(\*広告) 広島民衆劇場公演決定、平和書房

裏表紙

\*ピラ「杓子に托すメッセージ」(李徳全女子に杓子をおくる件に関して)

一枚挟み込み

第二号 一九五四年十二月六日 発行

表紙

目次

巻頭言 書きまくる運動

大原孝

矛盾

大原孝

特集 誌上・広島のうたごえ

三宅辰美

「甦える広島」に想うこと

三宅辰美

(*楽譜) 「甦える広島」	三宅辰美詞・林光曲	4
歌をつくる運動 「怒りの胸」を作曲して	木下航二	5
(*歌詞) 「怒りの胸」		5
(*楽譜) 「怒りの胸」	増岡敏和詞・木下航二曲	6
(*歌詞付き) 世界民青連代表歓迎のうた	長藤久子	7
平和を守る歌声	深川宗俊	8
(*楽譜) 「わが故郷」	増岡敏和詞・村中好穂曲	9
(*散文) 「歌のきずな」で	大保隆司	10
歌う詩をつくろう		10
無題 (*投稿よびかけ)		8
特集 広島・銀行員の詩集		
愛	S 夫	11
消えた不安	K 子	12
団結	M 子	13
明るいうたを	速水ちか子	14
合評 しゃべりまくるの記―一号合評から		15
詩 室田信子、加井幸子、水田たみ、寺川好子		11・14
詩 広島の一隅にも	えふ・ふぢの	15
メモ1		15
ひろば	村上忠人	16
かぐみ	亀崎保	16
わが乱文	四国五郎	19
詩 長女「美絵」	赤木健介	19
一言集・1	山上博	20
詩 胸にひるがえる	三宅元次郎	20
一言集・2		

詩 東の端のとうがきの実	島陽二	21
一言集・3	古井誠三	21
詩 歌	森鳳明	22
一言集・4	中野正	22
詩 屋上にて	中野正	23
詩 広島	松本志津江	23
一言集・5	山上博、友田智代	23
詩 稔り	古井誠三	24
一言集・6	山本和美	24
詩 酒友	楠哲和	25
一言集・7	三宅辰美	25
詩 荒廃の中に	山下徹	26
一言集・8	植野浩	26
詩 山の職場	赤木明孝	27
一言集・9	住屋とき子	27
詩 教師の歌	住屋とき子	28
一言集・10	末広一郎	28
詩 めぐりあった日に―ある酒場の女へ―	きし・ぼんじ	29
サークル詩・同人誌紹介	磨玲	30
詩 友よ	友田智代	31
魅力あるサークル誌のために	山上博、友田智代	33
メモ2	裏表紙裏	
(*広告) 吉川商店、おもったこと、奥付	裏表紙	

第三号 一九五五年一月九日 発行

表紙

1954年日本のうたごえに参加して 磨玲 1 (表紙裏) 2

特集教職員の文集

詩 綴る子ら にしはら・ただし 3

短歌 教師の短歌 岡辺春樹 4

お手紙ノート 住屋とき子 5  
6

私たちの歩み 長谷川朋子 7  
8

アンケート募集

落書抄 佐々木裕子 8

ひろば

山村の娘の手紙 狭山雄二 9

希望をもとう 中島弘 9  
10

原爆被害者の青年クラブのこと 川手健 10  
11

一号の詩評 西杉夫 11

(\*紹介) 謹賀新年

『詩歌集』発行プラン 11

一言集

島陽二、チホ子、江草実、住屋とき子、  
赤木明孝、狭山雄二、岸凡児、三宅辰美、  
増岡敏和、古井誠三、えふ・ふじの、友田智代

12

詩 笑い チホ子 13

四行詩 真澄修一 13

短謡 新春の譜 三宅辰美 14

MNPの会誕生 名越操 14

年末手当 中野正 15

師走の風 いわむら・ひろし 15

母に―町なる息子のうたえる― 古井誠三 16

無言歌 友田智代 16

日々 瓶十 17

われ等忘れまじ 岸凡児 17

燈台 赤木明孝 18

くじけずに訴え 山下徹 18

演劇静話 大月洋 19  
20

新しい抒情への道 藤野房彦 21  
22

詩 小鳥のこえ 深川宗俊 22

マーレンキー 村上歌路 23

メモ・1、2、3、4、5、6 山本和美 23  
28

詩 病の兄 はやみ・ちかこ 24

夜 村長さん えぐさ・みのる 25

あんやん 島陽二 26

かいほう いだ・みのる 27

詩 祈り 原爆症で死せる少年のため B O N 29  
30

花のあかるさ 極地京 30

詩人本屋 増岡敏和 31  
32

批評精神 島陽二 33  
34

へんしゆう室 友田智代 35  
36

続・魅力あるサークル誌のために 34

二つの集会記 植野浩 37  
38

みんな前に進んでいる

沼隈の青年と懇談（「平和と友情」より転載） 植野浩 38  
 おくづけ 38（裏表紙裏）

（\*広告）教育会館、白星書房、広島合唱団団員募集、  
 『われら』の次回会合開催 裏表紙

第四号 一九五五年二月十日 発行

表紙

もくろく

川柳 選挙

詩 さあ諸君

次回会合通知

シュプレヒコール 歌のベルト—中・四国うたごえ参加作品

山下磨玲、植野浩、増岡敏和

『歌のベルト』は、こうして作られた 山下磨玲

「歌のベルト」上演裏話 植野浩

トーマスさんの胸—世界民青連代表歓迎余話 新真理

中・四国のうたごえ—俳句ルポ 藤野房彦

女の詩集・1 おいぼう 河野富士子

2 ちんから峠 まさ子

3 図画の時間 住屋とき子

4 療養詩二抄 松本志津子

5 その人 マリ

6 女性解放 M A K O

7 チホ子も愛が欲しい／雨の路 チホ子

8 むんむん 大瓶陽

9 マー坊のために M子

21  
23

20

19

18

17

16

15

14

13

11  
12

10

9

7  
8

3  
7

2

2

表紙裏（1）

表紙裏（1）

10母の歌

アンケート

歌詞について

家の中の歌（その一）

サークルについておもうこと

私たちの俳句会

詩 秋

「続・魅力あるサークル誌のために」批判と補足 山上博

詩 お話／少年 真澄修一

小包の発送 中野正

終列車 江上芳和

冬の雨 江上芳和

「中・四国のうたごえ」から うえくに・のぼる

鑿のちかい 村上歌路

悲しみ 赤木明孝

抒情歌 瓶十

元旦のうた 古井誠三

こいの歌（反歌） 山上博

合唱団への挨拶 島陽二

詩 妻に われらのうたの会編集部

メモ

声 M O K O、村上歌路、江上芳和、大場義人、

ゆうき・かおる、瓶十、島陽二、山下磨玲 41 裏表紙裏

サークル誌紙紹介、へんしゆう室、カンパ芳名帳 裏表紙裏

『われらのうたの会』の輪郭について、奥付 裏表紙

泉秀子

三宅辰美

山中ひろし

山村良介

山本浩

B O N

真澄修一

山上博

中野正

江上芳和

うえくに・のぼる

村上歌路

赤木明孝

瓶十

古井誠三

山上博

島陽二

われらのうたの会編集部

四国五郎

37  
38

39  
40

38

40

41

裏表紙

13  
25、

26

27  
28

28  
29

29  
30

30

31  
32

32

33

33

33

34

34

35

35

35

36

36

36

37  
38

39  
40

38

40

41

裏表紙

第五号 一九五五年三月十日 発行

表紙

目次、(\*宣伝) 峠三吉祭、ハイキングに行こう 1 (表紙裏)

峠三吉祭について 編集部 1 (表紙裏) 2

峠三吉詩抄 隠れん坊／何故?／

こゝに人間は語らねばならぬ／

傷痕― 〃 原子雲の下より 〃 記念会―

友情のしるし― 四号までのあゆみ―

峠夫人病氣 激励を

特集 母をうたう詩

さだめ― 原爆で母を失いし―

うちの母ちゃん

焼きするめ

お母ちゃん

母親を見送って

母と子の対話

母と妹

私の母

ある母の話

うたゝねの母

母さんへ― この村にやってきた共産党 島陽二

母が亡くなって十三年たちました 桂雅夫

4号合評第一回 まさ子

4号合評第二回 まさ子

メモ

13 14 10 12 7 9 19 20 18 17 16 17 14 15 13 12 11 12 10 9 7 8 7 5 6 3 4

発行予定 (\*二号発表作品集)

たより 温井絹代、金田幸夫、山上ひろし、大場義人、

山本浩、古井誠三、大瓶陽、住屋とき子、

江上芳和、扇一郎、MAKO

第二回文化の集い― たんぽぽの実のように

(文化ニュース12号より抜粋)

詩 美津ちゃん

サークル誌紹介

詩 ぐうたら息子

(\*紹介) たんぽぽの実のように

詩 生活三題

再軍備反対

春二題 I / II

風景

女

日だまり

空

オンチ楽団の旅

現実

ばら／銀の笛

私のネーム

二人への手紙― 住屋とき子・チホ子さんへ 藤野房彦

詩 アンコー

その日から

(\*歌詞) 文化工作隊の歌

詩 きんとと

山下磨玲 21 22 早川多喜夫 23 23 えふ・ふじの 24 24 石根吞根 25 25 増岡敏和 26 26 BON 27 27 チホ子 27 27 大瓶陽 28 28 はやし・たもつ 28 28 石山千幸 29 29 松本志津江 29 29 畑本寿子 30 30 瓶十 30 30 香田誠 31 32 岡本こうじ 33 33 真澄修一 34 34 高本俊男 34 34

うたの歌

白木秋水

35

(\*宣伝) 次号プラン

詩 平和

古井誠三

36 (裏表紙裏)

編集室

『われらのうたの会』の輪郭について、奥付

36 (裏表紙裏) 裏表紙

第六号 一九五五年四月十日 発行

表紙

峠祭特集

峠三吉祭へのメッセーじ

峠三吉祭に 東京新日本文学会 1 (表紙裏)

峠三吉祭へのメッセーじ 壺井繁治 2

峠さんの三周忌に寄せて 赤木健介 2

峠三吉祭への挨拶 新日本文学会詩委員会 3

メッセーじ 東京新演劇研究所 3

メッセーじ 石田米孝、畑耕一、丸木位里・赤松俊子、大田洋子、榎田ふき、羽白幸雄、長田新、祝電(丸木位里・赤松俊子) 4

薔薇と魚の話 峠三吉祭のために 上本正夫 5

(\*短歌八首) 韻きあうこゑ―峠三吉祭によせて 深川宗俊 6

文化サークルの人たちへ 大田洋子 7

詩 病室から 峠和子 8

峠三吉祭を契機として 玉井芳彦 9

次号はこんなふうにつくりたい 2

もくじ

「原水爆禁止平和切手発行運動に就ての訴えとお希い」栗

ぱちんこ詩集 10

ぱちんこ 四国五郎 11

ぱちんこ談義 まさ子 12

パチンコ讃歌 島陽二 13

(\*よびかけ) ていあんI―文通活動をしよう 13

詩 僕はみつめている くらだ・はじめ 14

あなたの中で あい子 14

ねえちゃんの幸福／テストしたら 由美子 15

声 チホ子 16

智恵子抄をよみて 益崎京子 16

折鶴 住屋とき子 17

(\*よびかけ) ていあん―十号に原爆詩集― 山上博 18

詩 葉音 18

三宅辰美歌曲集 少女歌謡 よもぎ摘む頃 19

高本俊男歌曲集 あまだれ坊や／雀 20

(\*楽譜) 銀の笛 畑本寿子詞・まさ子曲 21

川柳 五十句 岩根吞旅 22

概念性の脱皮 チホ子 23

詩 時間よ 岩山千幸 24

渦の中 増岡敏和 25

(\*報告) 合同ピクニック盛大 行田ゆうこ 26

詩 従兄弟 淳子 27

春一題／そらまめ 28

声―病舎の窓から―	はやし・たもつ	29
嶽中のKへ	南京愛	29
見える	やまだ・ひでのり	30
夕ぐれ	上国英登	31
或る日の自分	赤木明孝	31
無題	円道優美	32
MAKOさんへ	植野浩	33
MAKOさんに	中野正	34
五号合評会Ⅰ 二月十四日	まさ子	35
五号合評会Ⅱ 三月廿九日	島陽二	36
たより 文芸評論編集部、三宅辰美、Q・R（*香田誠）、		
江上芳和、赤木明孝、泉秀子、チホ子、		
くろだ・はじめ、(MAKO改め) 由美子、		
友田智代、佐々木裕子、住屋とき子、扇一郎	山野良樹	37
木樵のうた	真澄修一	39
小曲四題		
(*死亡通知 石根呑旅) 甲、広告	谷浩二	40
詩 峠三吉祭会場にて	扇一郎	41
試験	としこ	42
瞳の中に		
受贈雑誌紹介	林戸瓶十	42
詩 忠義君へ	小川和子	43
春と子供	勝矢ふみえ	43
どぶの歌/球根		
(*結婚報告ふたつ) およろこび		
ふるさとの湖	島瀬博	44

創作 百姓の子	扇元孝一郎	45
(*案内) おわび		49
へんしゅうしつ	50 (裏表紙裏)	
峠三吉祭会計報告、連絡 (*次回合評会、例会)、		
第一回総会を開こう!、奥付	裏表紙	
第七号 一九五五年五月十日 発行		
表紙		
目次	1 (表紙裏)	
連絡 (*次回合評会、例会、藤村研究会)	1 (表紙裏)	
さまざまな花が一時に咲き競う	四国五郎	2
特集 第二回 誌上広島のうたごえ		
(*楽譜) 春のハイキング	島陽二詞・壇上宣順曲	3
かに	吉田まさ子詞曲	4
広島の牡蠣打ち娘	三宅辰美詞・長瀬貞美曲	5
鐵路のうたごえ	増岡敏和詞・村中好穂曲	6
詩 また逢おうぜ	三宅辰美	7
さら腕をくんで おくまえ・はじめ (*大前新)		8
だんだん畑/たけのこ	高本俊男	9
短歌 出発 (*7首)	くろだ・はじめ	9
諷刺について	むらなか・よしほ	9
(*よびかけ) メ切日をはやくしたい		10
(*案内) 「島崎藤村」研究会について		10
サークルのひろがりを読むもの	由美子	11
(*よびかけ) 第一回総会の準備をしよう		12

メーデー前夜祭雑感―三次地区にて―	山下磨玲	13	14
手紙	くろだ・はじめ	14	14
詩 おばさん	谷口豊	15	15
母さんの手	真澄修一	16	16
惜春のうた	まさ子	17	17
給料日	速水ちか子	18	18
嫁もらい	江上芳和	19	19
生活のうた	むらなか・よしほ	20	20
五月一日のこと	島陽二	21	22
(*連絡) 組曲発表		22	22
女性の立場	宮本初代	23	23
感想二つ			
現代詩について	松本志津子	24	24
世の親たちへ	K子	24	24
たより	米田栄作、大山英雄、村上歌路、行田ゆうこ、 友田智代、山岡和範、詩運動社、江上芳和、 大場義人、佐々木英雄、温井絹江、H・T、 くろだ・はじめ、温井絹江、K子	25	30
詩 五月	きくち・れいこ	25	25
ニュース		25	25
詩 方言	三宅久枝	26	26
ベル	行田ゆうこ	27	27
椿／夕ぐれ	淳子	28	28
月	松本志津江	29	29
望月五月歌	とし子	30	30
眸	古井誠三	31	32

ある人に	谷浩二	32	32
あなたに	由美子	33	33
心の灯	江草梅代	34	34
ある夜の会話	水野宏	35	35
工事現場	MON	36	36
無題	三島征子	37	37
祈り	泉秀子	38	38
受贈詩・紙紹介			
詩 原爆症とたゞかう	土井貞子	39	39
栗林公園にて	赤木明孝	39	39
矛盾	扇一郎	40	40
土曜日	瓶十	40	40
ある女患さん	はやし・たもつ	41	41
友へ送る	山下徹	41	41
園児のお帰り	小川和子	42	42
空白	佐々木英雄	42	42
ふたり／修正の詩	勝矢ふみえ	43	43
「われらのうたの会」への挨拶―八・六世界平和大会に向けて	広島合唱団	44	44
四月のメモ		45	45
創作 百姓の子 その2	扇元孝一郎	45	49
へんしゅう室		50	(裏表紙裏)
『国民の文章読本』の編集にあたってのおねがい、奥付 裏表紙			

第八号 一九五五年六月十日 発行

表紙

(\*楽譜) 青年栄光曲 増岡敏和詞・村中好穂曲 1 (表紙裏)

呼びかけ (\*第一回総会のために)

目次

詩 くにちゃん

死人のリスト

記録

たより (1)

詩 もはや自信にみちた夜明の季節

三輪車

詩 サークル誌紹介

詩 ムシカ

花

たより (2)

詩 たかしちゃん

たより (3)

ニュース

詩 早く帰らなければ

メーデーにー吾子「いずみ」とともに

春日和

八月の歌

子供の詩ー小学二年ー

ふみえ	3
浜野チホ子	4
土井貞子	5
東京都淡路書房	6
四国五郎	7
真澄修一	8
住屋とき子	9
しらき・すゝむ	10
江森盛弥	9
まさ子	11
山上博、江草実、K子	11
山上博	12
はしもと・みつ子	14
三宅久枝	15
下島淳三	15
おとうさん	T・M
顔	K・S
牛	S・S
年鑑	H・O

サークルの問題ー七号由美子氏のエッセイにふれ乍ら

東京と広島ーサークルのあり方ー

詩 受業中

短歌特集

峠三吉短歌抄

峠さんの短歌について

砂丘 (\*22首)

(\*32首)

クロバーの丘 (\*31首)

入湾 (\*10首)

雑記帳より (\*20首)

暗い日々 (\*31首)

(\*30首)

歴史 (\*21首)

折れざる葦ー我が青春の第一期をかえりみる歌反古の中から

(生活/学生時代/恋愛/煩惱/嵐/八月六日・自画像)

(\*3首)

詩 坂道/山行き

袋張り

たより (4)

詩 しん坊/母

突堤

うぬぼれ

原爆ドーム

水野宏	17
山岡和範	19
河野富士子	20
増岡敏和	21
深川宗俊	22
みやもと・まさよし	23
松岡正富	24
今日ひろみ	25
行田ゆうこ	26
極地京	26
くろだ・はじめ	28
中野正	29
増岡敏和	31
安成幸子	32
えぐさ・みのる	33
淳子	34
玉沢幸子、青山美智子	34
益崎京子	35
BON	35
江上芳和	35
吉川生美	35

あぶら虫	きくち・れいこ	36
雨の中の平和公園	はた	37
雨のヒロシマ	古井誠三	38
たより(5)	のぶほ、江上芳和、ふみえ	38
詩 車	早川多喜夫	39
おばさんの話	谷浩二	39
未来の光	松本志津江	40
去る人	城野博之	40
こだま	のぶほ	41
ある田舎の小さな店での話	K子	41
最近のニュースから	のぶほ	42
詩 夕立	赤木明孝	43
歌謡詩(一年生の絵/運動会)	高木俊男	44
労働災害	としこ	44
七号の詩について	島陽二	45
創作 百姓の子(3) 軍隊生活	扇元孝一郎	47
へんしゅうしつ、奥付	52 (裏表紙裏)	51
われらのうたの会清規、連絡(*合評会)、米田栄作詩集紹介、	裏表紙	
原稿を送れ!		

第九号 一九五五年七月十日 発行

表紙		
目次、原水爆禁止世界大会スケジュール決定	1 (表紙裏)	
連絡(*田辺耕一郎詞平和文化賞記念会)	2	
詩 うたごえ	3、4	
	本保幸雄	

(*よびかけ) 本保君をワルシヤワへ	日本民主青年団広島地区委員会	4
発展のための問題の提起(*われらのうた第一回総会報告)	増岡敏和	5
出席者区分表		10
詩 今日こゝに	古井誠三	7
(*報告)「詩と短歌」懇談会	編集部	11
たより八号評	島陽二	11
総会の話し合いの中から	山下磨玲	12
詩 青葉もえて	はしもと・みつこ	14
ドイツあざみのうた	吉田まさ子	15
かわ	島陽二	16
歪められた村(I)	山上博	17
お母ちゃん	江上芳和	18
たより(1)	本保幸雄、日本平和友好祭実行委、瓶十、住屋とき子、山上博、三好ゆたか、K子、古井誠三、杉田初代、純子、行田ゆうこ、友田智代、古井誠三	19
詩 社会科の時間	ふみえ	19
ひとすじ	新本弘子	20
或る朝	住屋とき子	21
オフィスのひとゝ	行田ゆうこ	22
誕生日	友田智代	23
石工の歌	赤木明孝	24
未だ見ぬ人への手紙	福島和子	25
詩二抄(手品/ラジオのバカ)	山中・あしの	26

受贈誌紹介				
詩 雨が降る日		チホ子	27	26
夕立		K子	28	
わが職場のうたごえ		四国五郎	29	
たより(2)	くろだ・くろめ、江上芳和、島陽二		30	
八号詩評特集(サークル詩のあり方)				
遠慮勝な批評		古井誠三	31	
失われぬもの		山岡和範	35	
感想風に		江上芳和	36	
前への衝動		山下徹	37	
サークルとサークル詩について			38	
友田智代、はた・としを、山上博			39	
詩 わたしの手		いしだ・きみえ	41	
歌詞ふたつ(おそとは雨降り／ぬりえ)		谷浩二	33	
(*案内) 平和文化賞受賞記念			36	
詩 お母さん		純子	36	
女の時間		安成幸子	40	
Hさん		土井貞子	41	
父と娘		瓶十	42	
夢		水野宏	43	
たより(3)	村上歌路、山岡淳、ふみえ		44	
詩 怒り		南京愛	45	
乙女の日		益崎京子	46	
(*案内) キャンプに行こう			46	
詩 呉湾の風の冷たさ		山下徹	47	
(*広告) 広島孔版社			47	

「露のとう」映画化のこと		くろだ・はじめ	48	49
詩 秋の日の夕暮		真澄修一	49	
コント 淑女と洋傘		白木秋水	50	51
広島逍遙歌募集、「未来にまでうたう歌」の書評を!				
辻詩募集、原稿募集、ニュース				
編集室、奥付				
原爆十周年記念「原爆禁止世界大会」を成功させるためのお願い				
(*原水爆禁止世界大会広島準備会)				
裏表紙				
第十号 一九五五年八月十日 発行				
表紙				
もくじ、連絡、原稿〆切				
にんげんのよのあるかぎり		われらのうたの会編集部	1	(表紙裏)
原爆詩特集			2	
つゝじ		ふみえ	3	
恒子		真田耕児	4	
平和の禱歌―かつて広島 <small>の</small> 測量者として―		山上博	5	
おばさん		早川多喜夫	6	
友へ		副島和子	7	
痛められた土地と空		チホ子	8	
ピカが落ちてはあ十年になります		藤村淳子	9	
ウィーン <small>の</small> 訴え		山下徹	10	
十年前の庭先で		K子	11	
あの日から		としこ	11	12
ひまわり		瑞枝	12	
断層		あい子	13	

原爆詩集	くろだ・はじめ	13	14
さあ返事を下さい	ペン・のぼら	14	
火星戦争「ヒメムカシヨモギのうた」	はた・としお	15	16
峠さんのこと	山上博	17	18
広島音頭	しらき・すすむ	19	20
(*広告) 広島 <small>の</small> 詩、句集「広島」	増岡敏和	19	
第四回文化の集いのこと	山下寛治	20	
短歌 原爆日記(*25首)	下島淳三	21	
朝	増岡敏和	22	
石の沈黙	島陽二・吉田まさ子	35	42
旅(I、II)	古井誠三	23	25
九号批評	山下徹	26	27
眩きから高らかに	交換詩紹介	27	
スケッチ風に	詩	28	
急いでいる	いのち―還らぬ妙子のために―	28	
汗のうた	かみなか・ゆうじ	29	
ラクちゃん	はしもと・みつこ	30	
歌いたい	はしもと・はちろー	31	
夏の歌	はやし・たもつ	31	
田草取る母上に	新本弘子	32	
忠実な男の台辞	赤木明孝	32	
ニュース	行田ゆうこ	33	
たより	山中あしの	34	
上本正夫、文芸評論編集部、くろだ・はじめ、		34	
由美子、山上博、早川多喜夫、上中悠嗣、		34	

短歌 盛夏(3首)	博子	43	47
詩 大砲の音	松本志津江	44	
まひるのうた	BON	45	
あとがき	48 (裏表紙裏)	47	
(*楽譜) 広島 <small>の</small> うたごえ	増岡敏和詞・村中好穂曲、		
(*歌詞) 広島 <small>の</small> うたごえ(*2、3の歌詞を修正)、奥付	裏表紙		
第十一号 一九五五年九月十日 発行			
表紙	(1)		
目次、原稿締切、連絡	2 (表紙裏)		
途上で―十一号までの総括として―	3		
原爆詩の取組みについて・他	山岡和範	4	6
暗い詩、明るい詩について―「われら」をはじめ読んで―	喜連敏生	6	8
詩 ニコヨン	松本辰男	8	
水槽I／水槽II／公衆電話／母子像／子供／出発	BON	9	
母親と息子	はやし・たもつ	10	
死と乙女	上中ゆうじ	11	
田舎の長男	江上芳和	12	

それから	ふみえ	13
セメントのうた	ペン・のぼら	14
The hands	副島和子	15
行列	住屋とき子	16
空・街・人の幻想	新本弘子	17
足音	土井貞子	18
貴方への手紙	藤村淳子	19
明日へのために	岡本一彦	20
爆音	としこ	21
灯	すすき・ふさえ	22
限らない友人たちのなかで	やまだ・てるみ	23
亀裂	下島諄三	24
城壁	増岡敏和	25
創作歌謡 がんす長屋の歌	三宅辰美	26
かなしみの季節は過ぎ去った―十号作品批評―		
広島合唱団と団歌	古井誠三	27
看過できない問題	植本祐弘	30
ニュース	水野宏	32
詩 母の死	くろだ・はじめ	34
弟達よ	はた・としを	35
不肖の息子	山下徹	36
原爆資料館にて	山岡和範	38
(*案内) 広島の人懇談会(仮称)、交換誌紹介		
詩 旅(III、IV)	島陽二・吉田まさ子	41
(*広告) 広島文学八月号、詩集「広島」	句集「広島」	47

詩 労働者の顔	泉秀子	48
散文詩 霧雨	真田耕児	49
創作 軍隊生活(II)―百姓の子(IV)―	扇元孝一郎	52
たより	半田栄作、山岡和範、カヴェルネの会、真田耕児、黒田愛子、平松柚子、鈴木真夫、庄司利久、土井貞子、ふみえ、古井誠三、ペン・のぼら、江上芳和	52・56
われらのうたの会清規	57・59 (裏表紙裏)	
へんしゅう室、奥付	59 (裏表紙裏)	
裏表紙		
第十二号 一九五五年十月十日 発行		
表紙		(1)
目次		(2)
一周年を前にして	編集部	3
電話開通お知らせ		3
若気のへの頌	コタンスキー	4
ニュース	石本美佐保	7
作詩と作曲について		8
お詫びとお願ひ	チホ子	9
生活態度から	松本辰男	11
中学生の詩 無題	増岡敏和	12
詩 写真	高橋幹人	13
中学生の詩 新聞配達		13
たより	山下徹、隅屋とき子、松本志津江、チホ子、三宅辰美、金田正己、朝田完二、田辺良平、本保幸雄、山中あしの、山岡和範、上中悠嗣、ペン・のぼら	14
		22

詩	ふるさとの歌	下島諄三	14
	蚕	住屋とき子	15
	秋風	藤村淳子	16
	秋雨をうたう時	山中あしの	17
	鉦	BON	18
	待宵草	河野富江	19
	杭	島陽二	20
	父	赤木明孝	22
	ガラス工場	八符英子	23
	連絡（*合評会、例会）		23
詩	ねがい	土井貞子	24
	子供の詩に学ぶ	山下徹	24
	門出	高橋恒夫	26
	亀裂	ひでと	27
	曇のち晴れ	副島和子	28
	あやべとうろう	くろだ・はじめ	30
	秋の日に	みちえ	31
	妹へ	まさ子	32
	新調した俺の背広	江上芳和	33
	夕刊―砂川の強制測量に寄せ	南京愛	34
	漕ぎ出せ	ペン・のぼら	35
	終焉	山上博	36
	老婆のうた	友田智代	38
類	はしもと・はちろう		40
	はやし・たもつ		41
	一つ焦点に		42
	生きていく魂 一革命家の死に寄せて		43

	受贈誌紹介	かみなか・ゆうじ	43
	豊穰のよろこびの中に11号作品評	古井誠三	45
	創作 軍隊生活Ⅲ 百姓の子 扇元孝一郎	50	46
	編集室、奥付	53	49
		54	裏表紙
			裏表紙
	第十三号 一九五五年十一月十日 発行		
表紙	目次、原稿募集、ハイキング案内、連絡	2	(表紙裏)
	不和雷同の勇氣	中野好夫	3
	女の自由について・他	チホ子	5
詩	秋やん	住屋とき子	7、8
	「考える」と云うこと―松本志津江さんに―	泉秀子	9
詩	満目秋陽	山上博	8
	風	増岡敏和	10
	「われらのうた」11号への感想	高島青鐘	11
	ひろっぱ	ふみえ	12
	煙草をすてる詩	島陽二	12
	滑空	望月久	14
	村祭り	赤木明孝	15
	(*案内) 一九五五年日本のうたごえ	於東京	16
	たより 浅田石二、喜連敏生、くろだ・はじめ、チホ子、江上芳和、		17
	宮迫孝、藤井可哉、ふみえ、林たもつ、古井誠三、		18
	野崎幸子、山上博、淳子、しらかすゝむ		19
詩	釜の中に	下島諄三	20
			28

鳩		山下寛治	21
雨だれ		野崎さちこ	22
犠牲		八符英子	23
雨の中で		山下徹	24
にんげん		高橋恒夫	25
光		みちえ	26
愛情		新本弘子	27
虫のあわれ		江上芳和	28
つまつたキセル		ペン・のぼら	29
「考える」寸感		真田耕児	29
夜		松本辰男	30
敗北の巷のうた		真田耕児	31
いぼがみさん		まさ子	32
自由なサークル運動へ		島倉啓二	33
詩 空想家と詩		はやし・たもつ	34
(*案内) 前進座来る!			35
詩 リンゴの実		土井貞子	36
日本文学心読書抜萃			36
詩 冬空		藤村淳子	38
受贈誌紹介			39
詩 心をさがして―飯田市の消えたぼくらのリンゴより―		副島和子	40
(*よびかけ) ボーナスが出たら!			41
詩 肺病たち		かみなが・ゆうじ	42
(*案内) 歌人山田あき講演会			43
子の報告		はた・としを	44
			45

ニュース			45
新しき歌よ大いにおこれ―十二号作品批評―		古井誠三	46
へんしゆう室、奥付		50・51 (裏表紙裏)	49
(*広告) 生活と文学創刊号、『乱と和』(*三原市・			
広島新詩人集団による新雑誌発刊)		裏表紙	
第十四号 一九五五年十二月十日 発行			
表紙			(1)
もくじ、合評会、15号について			
歌のことについて		浅田石二	3
(*よびかけ) 作品整理のすすめ			5
ある感想		はやみ・ちかこ	5
ニュース			6
メモ			7
自省的詩作覚え書		山上博	8
詩 美術展にて		八符英子	9
生活のなかから		喜連敏生	10
詩 電気銅		ペン・のぼら	11
随想 ヤスオトコノこま		吉田まさ子	12
詩 富士農民		麻井比呂志	14
たより		しろ・かずと、喜連敏生、ペン・のぼら、古寺三枝子、	15
		松本志津江、上中悠司、ふみえ、山岡和範、	
		浅田石二、はた・としお、友田智代	
詩 賠償		はた・としを	16
宿直		下島諄三	18
			19
			14
			25

詩	くになまり	増原正	20	21
	おばあさん	はやし・たもつ	22	23
	ふるさとはどこ	かみなか・ゆうじ	24	25
	朝の豆腐屋で	野崎さち子	26	26
牛	大野保 (*いなだみのる)		27	26
如何なる姿勢でうたうべきか—十三号作品評				
詩	エチユウド 女	古井誠三	26	33
	窓	望月久	28	28
	赤土	住屋とき子	29	29
	失われた歌について	副島和子	30	31
	(*連絡) 財政について	友田智代	32	33
詩	給料日	みちえ	34	35
	影	土井貞子	34	35
	みかん	八俣介一	36	37
	鯉(かれい)	ふみえ	38	38
	秋の道	山中あしの	39	39
	私はパン屋の売子	山下徹	40	40
詩	夜	河野富士子	41	41
	心の闘争	松本志津江	42	42
ニュース			43	50
詩	組合長田島	泉秀子	44	45
	三次の朝	江上芳和	45	45
	少年A	島陽二	46	47
	松の月	松原みよ子	47	47

	灰色人 その一	真澄修一	48	50
	習作 父と子	増岡敏和	51	55 (裏表紙裏)
	バックナンバーについて、奥付		56 (裏表紙)	
第十五号 一九五六年一月一日 発行				
表紙			(1)	
目次、連絡、原稿締切			2 (表紙裏)	
「書く」場			3	
詩集 子供の眼				
オネストジョン (久保障彦)、およめさん (広谷幸子)、				
ハンカチかぶって勉強 (伊勢本金四郎)、母の手 (吉田幸江)、				
質屋 (宮崎照尚)、いねこぎ (村本綾子)、				
えいが (有本泰子)			4	5
詩 勉強		西原宙	6	6
教師のうた		くろだ・はじめ	7	7
新年雑感		水野宏	8	8
詩 猿の年		ペン・のぼら	9	9
詩二題 (家庭／ある秋の夜)		増岡敏和	10	11
たより 岸田康政、喜連敏生、山上博、山中あしの、八俣竹一、				
江上芳和改め藤内博章、山岡和範 (*二信)				
詩 いもうと		山上博	10	17、21
失われた感覚		八符英子	12	13
孤独		野崎幸子	14	14
チェゴを売る少女		かみなか・ゆうじ	16	17

ぼくらの年	島陽二	18
麦と薯	吉田まさ子	19
冬の陽が	チホ子	20
夜—インドの絵より (国際美術展より)	副島和子	21
今年から 仲間に入れてください	いなだ・みゆる	22
歴史	山岡和範	23
二人	山中あしの	24
詩人は言葉の工匠に—十四号批評—	友田智代	24、29、34、35
詩 八月子	長沢理雄	26
だまされないぞ	藤内博章	27
望み	松原美代子	28
鉛筆	土井貞子	29
日本の気象 (冬のくらし) より	八俣介一	30
壁	高橋恒夫	31
落葉期の話—一九五五年一月三日の朝		32、33
一九五五年十大ニュース (*「われらのうたの会」関連		33
(*広告) 十日市工房		33
受贈詩紹介		35
編集室、ニュース、奥付	36、37 (裏表紙裏*47と誤記)	
(*予告) 増岡敏和詩集、麻井比呂志詩集	裏表紙	

第十六号 一九五六年二月十六日 発行

表紙  
目次、原稿について、連絡

2 (表紙裏)  
(1)

ポーランドの愛国詩人—ミツケエヴィツチ死後百年祭り—		
(*『詩運動』15号より転載)	黒木潔	3、4
(*宣伝) ハイネ百年祭について		4
サークルについて その1	島陽二	5、6
ニュース		6
文章特集 (*十六号までの批判をうけて)		
広島民衆劇場の人達	大月洋	7
表紙絵のこと	四国五郎	8、9
峠さんに関するぼくのこと	村中好穂	10
書かざる麻井比呂志様へ	麻井比呂志	11
結婚のバンスシート	山下徹	11、12
車中にて	増原正	12
夜の虹—私は広島を歌いつづける—	深川宗俊	13
私のノートから	山下磨玲	14
詩集「明日への眼」後記	増岡敏和	15
受贈誌紹介		9
先生の詩		
Kちゃん	住屋とき子	16
べんとう時間	ふみえ	17、18
てがみ	あいこ	18、19
母ちゃんの顔—子ども作文から—	くろだ・はじめ	19、20
成人の日	山岡和範	20、21
銭という奴	西原宙	21、22
たより 「生活と文学」編集部、浅田石二、黒田一、牛尾秋光、		
浜野千穂子、林たもつ、勝矢ふみえ、かみなが・ゆうじ、		

高橋恒夫、山上博、いなだ・みのる、山岡和範	16	27
十五号作品感想	山上博	23
磯沢龍	28	27
看護婦と療養者の詩	28、	32
明日のために	岩田ひなえ	35
無題	みちえ	29
エネルギー	高橋恒夫	30
死んでいる室	中尾秋光	31
十年	かみなが・ゆうじ	32
おふくろの手	はやし・たもつ	33
ニユース	下畠諄三	35
詩 出発	やまだ・としお	36
交渉	いなだ・みのる	37
山仕事	K・K	38
日時計	R・R	39
波	山中あしの	40
義足	藤内博章	40
弟	チホ子	41
夜	土井貞子	42
小鳥	野崎幸子	42
私の問い	副島和子	43
別れの曲	小林基雄	44
パチンコ	本保幸雄	45
ワルシヤワ紀行	東海草	48
詩 峠三吉氏に捧げる詩	49 (裏表紙裏)	

(\*広告) 増岡敏和詩集、麻井比呂志詩集、ラジオ放送曲から、  
作品整理のすすめ、その後、奥付 50 (裏表紙)

第十七号 一九五五年三月八日 発行

表紙		(1)
目次、連絡、十八号について		2 (表紙裏)
ハイネのこと	赤木健介	3
ニユース		4
ハイネ死後百年記念—文学集会・誌上『ハイネの夕』	中井正文	5
ハイネの生涯	米田栄作	8
川の詩とハイネ	亀井文夫	9
広島と映画と詩	田辺耕一郎	10
ハイネと今日の問題	大原三八雄	12
ハイネとシューマン		15
(*宣伝) 心象詩集 (*遠地輝武)		17
(*宣伝) 詩集 (*増岡、麻井)		12
それから 峠三吉四年祭によせて	八符英子	18
詩 旅	野崎京子	23
雪	友田智代	24
レース編み	望月久	24
なまけ者のうた	朝吹みね	25
表情	くろだ・はじめ	26
W H I S K Y	はやし・たもつ	26
その日の午後	吉田まさ子	27
紋章		28

勝利の機会	東快三	28
坂	増原正	28
思いやり	松原美代子	29
波	かみなか・ゆうじ	29
訴え	山田としを	30
君の手	高橋恒夫	30
土曜日	副島和子	31
親父と北風	赤木明孝	32
愛	新本弘子	32
くらしのうた	ペン・のぼら	33
狂信	山中あしの	34
赤ん坊に	藤内博章	36
グルウムード・スウタア	古井誠三	36
風の中に	泉秀子	37
あひるの歌	嘶邦郎	39
無題	竹林昭二	39
寡婦―歪められた村	山上博	39
(*案内) 峠三吉・原民喜祭スケジュール	島陽二	43
サークルについて2	いなだ・みゆる	45
僕はサークル誌をケイベツしてない		46
受贈誌紹介		46
詩集評 (*増岡『明日への眼』、麻原『昇天拒否』について)		
田辺耕一郎、上本正夫、浜野チホ子、四国五郎		47
雑感(1)	増岡敏和	54
ワルシヤワ紀行(*連載)	本保幸雄	55
十六号批評	喜連敏生、山岡和範	58

雑感(2)	増岡敏和	59
編集後記、奥付		60
*訂正ビラ(峠和子文章22頁下段十七行目以降の補足)		(裏表紙)
一枚挟み込み		
第十八号 一九五六年四月八日 発行		
表紙		2
目次、連絡、19号について		(表紙裏)
うたごえ運動と文学	小野十三郎	3
文学サークル運動覚え書き	増岡敏和	14
詩	増原正	18
制服	島陽二	19
その言葉	山岡和範	20
責任について	土井貞子	21
福寿草	副島和子	21
白い花への讃歌	朝吹みね	22
故郷	中尾秋光	22
現実(短章二)	嘶邦郎	22
あひるの歌(II)	ペン・のぼら	23
肩もみ	まさ子	23
エイジのひみつ	早川多喜夫	24
星流る	英子	24
群集	岩田ひなえ	24
苦しむこと	野崎幸子	25
私はうたいます	藤内博章	25
私		26

古本屋で	かみなか・ゆうじ	26	27
泥沼	東海草	27	
三月十五日―昭和二十年六月十五日、南方で死んだ	高橋恒夫	27	28
兄貴の骨はもう帰つてこない	江草実	28	29
墓碑銘	いなだ・みのある	29	30
父と子		30	
受贈誌紹介		30	
サークル詩であることを意識しすぎぬように	山上博	31	32
子供のための詩	くろだ・はじめ	32	33
ニュース		33	
十七号批評			
総評	喜連敏生	34	35
十七号の感想	下畠諄三	36	
(*報告) 小野十三郎氏を迎えて		35	
ある感想	チホ子	37	38
小野十三郎氏に接して	友田智代	38	
山懐通信 (其の1) ―田舎から町え―	古井誠三	39	41
ニュース		41	
編集室、お知らせ、奥付		42	43 (裏表紙裏)
(*広告) 広島詩集「川」、バックナンバー		44 (裏表紙)	

二つの実りによせて (*増岡・麻井詩集出版記念会メッセージ)	島陽二	3	
赤木健介、壺井繁治、遠地輝武、大島博光、坂井徳三、			
李仁、深川宗俊		4	9
詩 子供のいる街	山岡和範	10	
ひなた	副島和子	11	
生きる	朝吹みね	11	
宇品駅から いつも元気に帰ってくる女学生たち			
いずみ・こういち		12	13
受贈誌紹介		13	
十八号批評	下畠諄三、増原正、吉田まさ子	14	24
詩 何が私を	野崎幸子	14	
昇給延伸	増原正	15	
夜更けの駅で	かみなか・ゆうじ	16	
あひるの歌 (Ⅲ)	嘶邦郎	17	
メーデー	中尾秋光	18	19
灯	原一子	19	
ながれ	みちえ	20	21
ニュース		21	
詩 花見	島陽二	22	
訴え	八符英子	23	
クイズ	はやし・たもつ	24	25
(*広告) 創作と評論研究誌『地方』創刊号		25	
詩 はとば	香田誠	26	
手紙	いなだ・みのある	26	27
(*報告) 増岡敏和「明日への眼」麻井比呂志「昇天拒否」			

詩集出版記念会報告

詩 雪の山 27

星二題 くにゆき・あきら 28

網 山上博 29

平和の鐘 東海草 31

退院の日に 高橋恒夫 32

十八号所感 喜連敏生 33

たより くらだ・はじめ、副島和子、林たもつ、 34、25

友田智代、いなだ・みのる 35

奥付 35 (裏表紙裏)

(\*広告) 広島詩集「川」、編集室 36 (裏表紙)

第二十号 一九五六年六月十日 発行

表紙 1

目次、連絡 2

成果とするために 3

「明日への眼」の一つの問題 4

プロレタリア詩の諸問題―類型化について― 岸本典雄 7

詩 東京詩集(早春/道) 増岡敏和 10

失格(その一/その二) むらなか・よしほ 11

天皇二題(天皇の機関車/「象徴」首環説) 島陽二 12

四ツ角 沼英二 13

光を我のものに 朝吹みね 13

風の抄 増原正 14

15

短歌(5首) 土井ひろ子 15

19号評 合評会を中心として 吉田まさ子 16

詩 メーデーの便り 泉秀子 16

夜勤 八符英子 19

おばあさんの糸まり えぐさ・みのる 20

断層 高橋恒夫 22

自然の楽しさ E子 23

かなしみの歌 嘶邦郎 24

受贈誌紹介 木村法文 26

詩 夜風 野崎京子 27

母の追憶 27

(\*予告) 原爆詩特集のために 副島和子 28

詩 孤独を食む人々 いなだ・みのる 29

平和 竹林幸子 30

私は失業者です 林たもつ 31

苔 東海草 31

ゆらめくもの ペン・のぼら 32

妻 山岡和範 33

はてしない麦のなかで 33

ニュース 33

詩 アカシヤの花 かみなか・ゆうじ 34

雪の日の配達溜 下島諄三 35

畜殺場附近 望月久 36

詩論をうちだすまえに 喜連敏生 36

おねがい 編集部 37

たより 田辺耕一郎、遠地輝武、増岡敏和、力徳法子、 37

ペン・のぼら、えぐさ・みのる、山上博、  
かみなか・ゆうじ、岸本典雄

21号原稿募集

へんしゅう室、カンパのお礼、奥付

(\*広告)『樹木と果実』六月号、広島詩集『川』

裏表紙裏  
裏表紙

38  
40

第二十一号 一九五六年七月十日 発行

表紙

目次、連絡

第二回総会について

作者の不在について 「昇天拒否」評

詩集「川」批評

私の詩と懷疑

詩 ライオンと調教師と

セイジ開眼

二十号評

詩 老駅長

閉店間際

悠嗣のために―エゴイスト典雄の献詩―

恋

さいとう火

受贈誌紹介

詩 落伍

幸せのうた

編集部

編 島陽二

赤木健介

野崎京子

望月久

吉田まさ子

福島和子

わいち

高橋恒夫

岩本典雄

かみなか・ゆうじ

えぐさ・みのる

相原淑

いなだ・みのる

2 (表紙裏)

(1)

24  
25

22  
23

20  
21

18  
19

17

16

16  
25

15

14

13

10  
12

4  
10

3

「われら」の合評会のみなさんへ

詩 自転車

ニュース

詩 ケロイド

(\*広告)『樹木と果実』七月号

詩 東京詩集(演説/サラリーマン)

初夏の歌

渦潮

今夜も

松の木

ビキニ島への連想

らじお

時代の歩み

川と橋のある風景―郷愁の新橋界限に―

対立

不凍港にて

記者の中で

初夏

退院を前に

二十号作品より

たより 清水高典、山岡和範、古井誠三、いなだ・みのる、

えぐさ・みのる、杉浦三郎、みなみ工一 44・45 (裏表紙裏)

編集後記、奥付

裏表紙

増岡敏和 25  
29

大村法文 26  
27

山田としお 28  
29

増岡敏和

嘶邦郎

東海草

喜連敏生

八俣介一

はやし・たもつ

朝吹みね

山上博

はた・としを

藤内博章

原一子

E子

喜連敏生

40  
41

39

37  
38

36

35  
36

34

33

32

31

31

第二十二号 一九五六年八月七日 発行

表紙

目次、連絡

八月のアッピール

二十一号漫步

エッセイ四題

夏雲

詩作ノート

誤解がある

私が詩を書く時

原爆詩特集—いまもなお

比治山で

透明な叫び

写真

夏の街

雨

八月の川に来て

友よ!

ひろしま

まなこ

土の記録

戦争二題 (玲子/生きかえらぬものはいない—歌詞のために)

祖国に戻った白い白いあなたよ—中林智子様を悼む—

増岡敏和

原田節子

前坂新三

この命

山上博

表紙裏

編集部

増岡敏和

土井貞子

かみなか・ゆうじ

増原正

新本弘子

八俣介一

野崎京子

かみなか・ゆうじ

浜野千穂子

くろだ・はじめ

原一子

土井貞子

岸本典雄

ペン・のぼら

島陽二

増岡敏和

原田節子

前坂新三

この命

山上博

19

18

17

16

15

14

13

12

11

10

9

8

7

6

5

27

24

1

原爆詩特集—忘れはしない

修羅人間図

忘れはしない

十一年目の希い

蝉・八月六日・母

手記

広島の詩人の仕事

具象的な訴え

お願い (\*松川事件の署名)

おわび (\*二十一号で、「山岡和範」とあるべき個所を

「山田としお」と記載したミスに関して)

受贈誌紹介

詩 自然の恵み

うるさい

メーデーの色彩

壁の表情

どこへ行く

ボロ蚊帳

断章

第二総会のために (\*総会事前資料)

経過報告 何をしてきたのか—今後の課題にふれながら

(1) 「原爆詩」と「書きまくる」のこと

(2) 文化人との交流

(3) 詩集の出版について

(4) 研究会のこと—高まること—との一つの方向として

経過報告 サークルの台所—組織と財政

古井誠三

相原淑

小泉晴生

はら・たもつ

下島諄三

深川宗俊

望月久

17

26

26

26

26

26

26

26

26

26

26

26

26

26

26

26

26

26

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

29

29

29

29

29

29

29

29

29

29

29

29

29

29

29

討論のために 発展のための若干の問題

1 増岡の上京とサークルの在り方

2 書けないことについて

3 「原爆詩」の問題

島陽二、下島諄三、増原正、望月久

33

ニュース

37

原稿募集

たより

山田迪孝、清水高典、古井誠三、ペン・のぼら、麻井比呂志、林たもつ、小泉晴生

51

(\*広告) 『樹木と果樹』 八月号

へんしゆう室

53 (裏表紙裏)

(\*広告) 『一つの徑』 (東海草)、 『河童昇天』 (麻井比呂志)

奥付

裏表紙

第二十三号 一九五六年九月十五日 発行

表紙

目次、お知らせ

表紙裏

第二回総会の討論 新しい使命と方向はだされたか

編集部

1

詩 職場から

藤野あつこ

8

黄と白と黒と

チホ子

8

御幸橋を電車で通過したとき

島陽二

9

失われた心

土井貞子

10

ストライキ

朝吹みね

11

竹内被告人に贈る

野崎京子

11

広島の人々の叫び

東海草

11

かもしかの眼

かみなか・ゆうじ

12

女身

古井誠三

13

エッセイ 書きまくって来た中

はやし・たもつ

14

わたしの好きな詩 こどもの詩から

勝矢ふみえ

17

(\*お知らせ) 財政の運営について一言

E子

19

詩 疲れた時

E子

20

大学

ペン・のぼら

21

仕事(ひえ切り)

大野俊郎

22

月

藤本弘士

22

駅で(友へ)

田口京子

23

知らない友

末広一郎

23

港の幻想

八符英子

24

眼鏡

向井洋士

24

追悼ミサ

津田定雄

25

再起

麻井比呂志

25

喪われるもの―結核療養所にて―

山上博

26

ニュース、受贈誌紹介

関根洋子

28

詩 鉄路によせる

関根洋子

29

(\*案内) 第一回市民講座現代への招待

詩 暗い谷間

えぐさ・みのる

30

サトミ

さかとう・ちかを

31

側面的発言として 二十二号漫步

増岡敏和

32

二十二号合評会の印象

望月久

35

たより 山岡和範、黒田一、山上博、深川宗俊、大山英雄

37

38

39 (裏表紙裏)

(\*広告) 『樹木と果樹』 九月号、奥付  
編集後記 39 (裏表紙裏)  
裏表紙

第二十四号 一九五六年十月十日 発行

表紙	目次、お知らせ	表紙裏	1
	いま考えていること	編集部	1
詩	山へ	増原正	2、3
	少女	田口きょうこ	3
	川岸にて	野崎幸子	4
	ザ・ファミリ・オブ・マン (人間家族)	ふみえ	5
	田舎のある日	E子	6
	似島	東海草	6
	夢	岡野あい子	7
	ドカチン	前崎隆士	8、9
	野菊	藤本弘士	9
	便り	山上博	10
	夏の田	はやし・たもつ	11
ニュース			11
詩	子供らへ	森沢和子	12
	ゆうぐれ	かみなか・ゆうじ	12、13
	火葬場	いづみ・こういち	13
	無キ動車	向井洋士	14
	ニュース映画映画館で	島陽二	15
	食うため	青木ますを	16

あぶら虫 末広一郎 17  
 ぼくの好き嫌い 望月久 18、20  
 元気を出してください 末広一郎 20  
 私の好きな詩 優しいうた 吉田まさこ 21、23  
 たより はやし・たもつ、ふみえ、E子、山上博、大前新  
 あとがき、奥付 24 裏表紙裏  
 裏表紙

第二十五号 一九五六年十一月十日 発行

表紙	目次	表紙裏	1
	中表紙 (*中原中也「蛙声」掲載)		
	初歩的なこと	山上博	2、7
	錯覚と誤解	増原正	7、11
	24号月評	下島諄三	12、22
詩	牛を語る—ふるさとにて—	友田智代	12、15
	歴史	島陽二	15、18
	季節	いづみ・こういち	18、19
	シヤンソンと万葉	勝矢ふみえ	20
	詩三篇 (天国の輝き／一つ星／ <small>かたひめ</small> 関の声)	東海草	21、22
	群衆—砂川に行きたかった—	向井洋士	22
お知らせ (合評会、原稿〆切)			
詩	夜間作業場にて	野崎幸子	23
	間借で街に住む	末広一郎	23

私の好きな詩3 見方	喜連敏生	24
詩 道	増岡敏和	25
その人たち	はやし・たもつ	26
ばんがたの汽車で	田口京子	27
剰余価値	古井誠三	27
バーの女	藤内博章	28

書けないことをめぐって	いづみ・こういち、喜連敏生、友田智代	29
「われら」君を診断する	藤内博章	31
24号評僚友へ	はやし・たもつ	32
(*よびかけ) 部数を増やそう		33
小座談会 生活する眼	勝矢ふみえ、浜野チホ子、島陽二、(速記吉田まさ子)	33
ニュース、受贈誌紹介、年鑑詩集を作る訴え		34
たより 児玉藻佑、古井誠三、中尾秋光、山上博、向井洋士、浅田石二、末広一郎	46	47
へんしゆう室、奥付	裏表紙	

第二十六号 一九五六年十二月十日 発行

表紙		
目次		
中表紙(*リルケ「マルテの手記」掲載)	表紙裏	1
抒情について	かみなか・ゆうじ	2
サークル誌の質的向上について	浜野チホ子	4
ある違和感について—古井誠三論—	増原正	7
		9

ニュース	友田智代、はやし・たもつ、E子、	9
たより	えぐさ・みのる、藤内博章、末広一郎	10
詩	手と髪	10
	はやし・たもつ	11
	かみなか・ゆうじ	11
	増岡敏和	12
	増岡敏和	13
	増岡敏和	14
	町へ	14
	コスモス—お前の花言葉は愛情—	15
	八符英子	15
	オハギ	16
	ペン・のぼら	16
	古井誠三	17
	手相	18
	古井誠三	18
	懐友	20
	三木俊武	20
	東海草	21
	私の恋文	21
	比呂子	21
	秘愛—孝さんに—	22
	藤木弘士	22
	愛情	22
	えぐさ・みのる	23
	晩秋	23
	津田定雄	24
	この温い陽だまりのなかで	24
	接吻	24
	藤内博章	25
	ネルの着物	25
	E子	25
	命ありし	26
	前崎隆士	27
	夏から秋の相—古森さんの亡骸—	27
	向井洋七	28
	夜の女と母	28
	早川多喜夫	28
	(*広告) 麻井比呂志第三詩集『河童昇天』	28
	詩 ヒロちゃん	29
	きようこ	29
	君の瞳は	29
	土井貞子	29
	からだをやく	30
	山上博	31
	ぶらんこ	31
	いづみ・こういち	31

夜の記憶

望月久

32

芋

末広一郎

33

私の好きな詩(4)

古井誠三

34

山代巴著「荷車の歌」紹介(一)

水野宏

35  
37

(\*広告) 東海草詩集『二つの徑』

らくがき 一・愛と偶像

島陽二

38  
39

25号評

ペン・のばら、山上博

40  
41

小座談会2 わたしたちはこう考える

住屋とき子、田口京子、下島諄三(司会)

42  
56

受贈誌紹介

財政についての訴え

編集部

57  
58

27号の発刊について、お知らせ(\*合評会の日時、場所)

編集室、奥付

裏表紙裏・裏表紙

58

第二十七号 一九五七年一月三十日 発行

表紙

もくじ

表紙裏

中表紙(\*レイモン・ラディケ「ドルジェル伯の舞踏会」)

年刊詩特集(\*一九五六年に書かれた詩)

手紙

食うために

表情/故郷

親父と北風

再起

えんとつ

あい子

青木ますお

朝吹みね

赤木明孝

麻井比呂志

いづみ・こういち

2  
3

3

4

4  
5

5

退院を前に

E子

5

明日のために

岩田ひなえ

6

風の中に

泉秀子

6  
7

ひろしま

岩木典雄

7  
8

山仕事

大野俊郎

8

雪の山

えぐさ・みのる

8

どこえゆく

大前新

9  
10

ザ・ファミリイ・オブ・マン

勝矢ふみえ

10

ガス麻睡ノ臭気タダヨウ

かみなか・ゆうじ

11  
12

今夜も

喜連敏生

12  
13

雨

くろだ・はじめ

13

星二題

くにゆき・あきら

13

サトミ

さかとう・ちかお

14

間借りで街に住む

末広一郎

14

〈愛する〉

島陽二

15

雪の日の配達溜

下島諄三

16

Kちゃん

住屋とき子

16

落伍

新本弘子

17  
18

鐵路によせる

関根洋子

18  
19

別れの曲

副島和子

19  
20

エネルギー

高橋恒夫

20  
21

弟

藤内博章

21

私は失業者です

竹林幸子

21  
22

ヒロちゃん

田口きよう子

22

追悼ミサ

津田定雄

22  
23

鉛筆

土井貞子

23

レース編み	友田智代	26
死んでいる空	中尾秋光	26
四つ角	沼英二	27
雪	野崎幸子	27
灯	原一子	28
港の幻想／交流―美術展にて―	八符英子	28
星流る	早川多喜夫	29
黄と白と黒と	浜野チホ子	29
手と髪	はやし・たもつ	30
不凍港にて	はた・としお	31
あひるの歌(Ⅱ)	嘶邦郎	32
私の恋人	東海草	33
グルウムード・スウタア	古井誠三	33
野菊	藤本弘士	34
大学	ペン・のぼら	35
明るいところへ	前坂新三	36
スリッパを洗う	増原正	36
ドカチン	前崎隆士	38
遠い富士―ある疲れた人に代わって―	増岡敏和	39
思いやり	松原美代子	40
ながれ	みちえ	41
夏から秋の相	向井洋士	41
失格	むらなか・よしほ	42
らいおんと調教師と	望月久	43
動力導入	山上博	45
交渉	やまだ・としお	47

狂信	山中あしの	48
比治山で	八俣介一	49
老駅長	わいち	51
あなたはゆかねばならない	真田耕児	52
27号について	増原正	24
受贈誌紹介		25
ニュース		29
二十六号月評	東海草	53
財政報告		54
たより	山上博、ペン・のぼら、藤内博章、はやし・たもつ、住屋とき子、大野俊郎、友田智代、末広一郎	54
奥付	裏表紙裏(*57に相当)	
編集後記、28号について、懇談会について	裏表紙裏(*57に相当)	
第二十八号 一九五七年三月一日 発行		
表紙		
目次		
中表紙(*峠三吉「歌」抜粋)		
エッセイ特集・サークル誌の周辺		
詩情―僕等の立つ位置	岩木典雄	2
運動の拡大について	かみなか・ゆうじ	11
素朴リアリズムを解決するために	大野俊郎	14
高まりのために	喜連敏生	19
表紙裏		22

あたりまえでなくそしてあたりまえに

—27号詩特集号漫歩—

増岡敏和

44  
49

財政報告、受贈誌紹介、奥付

峠三吉追悼『原爆詩集』を読む会

裏表紙裏  
裏表紙

ニユース

詩 伝統

山上博

23  
24

(\*原稿募集) 私の好きな詩

詩 麦を踏む母

島陽二

25  
26

影

かみなか・ゆうじ

26

ジェルヴェーズ—映画居酒屋ラスト・シーンより—

真田耕児

27  
28

冬陽

いずみ・こういち

28

財産

志摩園子

29

朝の途上抄

くろだ・はじめ

30

闘い

えぐさ・みゆる

31

Bさん

中尾秋光

31

電線網の中で—錯乱する各糸の脈々

向井洋二

32  
33

被爆者

東海草

33

人形

ペン・のぼら

34

公傷の友に

二木俊哉

34  
36

秋の日

岩木典雄

36

弟に

早川多喜夫

36  
37

「星」

土井貞子

37

かごのとり

野崎幸子

38

連絡 (\*原稿不切、合評会、峠三吉追悼『原爆詩集』を読む会)

(\*創作) 白い海

チホ子

39

たより 遠地輝武、泉秀子

43

あとがき

49  
50

第二十九号 一九五七年四月一日 発行

表紙

もくじ

中表紙 (\*谷川雁の言葉)

峠さんのこと

真田耕児

2  
3

たよりI

喜連敏生

3

第三回峠三吉祭から

増岡敏和

4  
5

作者曰ふ 「女身」批判を中心として

古井誠三

6  
8

ニユース

私の好きな詩5 鶯の歌 (小熊秀雄)

ペン・のぼら

9

詩 何処に

山上博

10

日本の冬に

八俣介一

11

ゆたんぼ

西永くにほ

11

入学試験

津田定雄

12

あるヒロシマの海岸で

藤内博章

12

罪について

二木俊哉

13

作品二題 (旗/恵美子ちゃんのために) 東海草

胸部整形術

中津秀昇

14

お知らせ (\*合評会、原稿不切、ピクニック)

詩 一九五七年の冬の夜

八符英子

15

自転車

泉秀子

16

恋の告白を受け

向井洋士

17

昏れる海辺のうた	真田耕児	18
ノック	土井貞子	18・19
野糞	大野俊郎	19
「道」抄	増岡敏和	20
受贈誌紹介		20
生活記録 1 婦人組合 2 妹たちの批判	下島諄三	21・22
公式主義の考	二木俊哉	23・(24)
たより	八俣介一	(24)
28号漫歩 断片的詩評	増岡敏和	25・28
28号評	かみなか・ゆうじ	28・31
たより	山上博	32
サークル運動の道程―28号にふれて―	島陽二	
奥付	33裏表紙 (*36に相当) 裏表紙 (*36に相当)	
第三十号 一九五七年五月一日 発行		
表紙		表紙裏
もくじ		
会員制を作ることに ついて	編集部	1・3
合評会の後で	喜連敏生	4・5
ニュース		5
座談会 3 新しい歌の土壌―広島合唱団の読者と		
大保隆司、児玉藻佑、村中好穂 (*広島合唱団)		
望月久、増岡敏和、島陽二 (*われらのうた)		6・16
作品研究 (*沼英二「掃除婦」)		
詩		
鏡	高橋恒夫、吉田まさ子、増原正	17・19
朝鮮菊	いずみ・こういち	20
茫靄	かみなか・ゆうじ	20・21
ガタガタバスの英雄	かわしま・たけし	21
だからまいにちきものを	浜野チホ子	22・24
作男のうた	志摩園子	24
まきば	大野俊郎	25
ノーマンの死 (今日のアメリカ)	西永くにお	25
手間である女	二木俊哉	26
街角のうた	江上芳和	26・27
なけてくるのだ	真田耕児	27・28
昏い春	東海草	28・29
山から	八符英子	29
あかつきの歌	古井誠三	30・31
受贈誌紹介	嘶邦郎	31
散文詩 発狂		31
詩 デモコーシン	山上博	32
生活記録 昼めしとヤグラとぼく	大前新	32・36
やっぱり、から、すみません、まで	下島諄三	37
29号評 「女身」をめぐって	かみなか・ゆうじ	38・39
29号評 生活追及はどのようににされているか	真田耕児	40・41
アンケート、たより (真田耕児、嘶邦郎)	島陽二	42・43
おしらせ (*合評会、原稿×切)		44・49
へんしゅう後記、奥付		49 (裏表紙裏)
	裏表紙	

第三十一号 一九五七年六月十日 発行

表紙

もくじ

八月にむけるアッピール

「戦争」について―北川冬彦の作品より― 喜連敏生

歌う詩三つ

くわの木

おまえになろう／五月の歌

詩 石河原の上を素足で歩いたら

天山山系

女学生

ぼくらの空

相手のない対話

空洞抒情―母・その愛

われらが父母の哀しみの樹に

物語

受贈誌紹介

詩 森と海と川辺のうた

頽廢―文壇の崩壊に思う―

キップ

雪―映画「松川事件」をみて―

作品研究（\*沖田里史「ナワない」）

はやし・たもつ、八俣介一、島陽二

原稿募集、編集企画

編集部

はやみ・ちかこ

増岡敏和

西永くにお

かわしま・たけし

嘶邦郎

二木俊哉

八符英子

かみなか・ゆうじ

山上博

ペン・のぼら

真田耕児

江口信幸

向井洋士

島陽二

表紙裏

(1)

21  
23  
23  
19  
18  
17  
17  
15  
14  
15  
13  
14  
10  
12  
9  
8  
9  
7  
6  
7  
5  
5  
5  
2  
4

生活記録 朝の歌

三十号評

三十号評

「歌詩」「大丈夫」と「詩でする話」―三十号漫歩―

たより

アンケート集

詩 林

生活記録 別れたあと

たより 山上博、真田耕児、中尾秋光、

かみなか・ゆうじ、林たもつ

へんしゆう室、奥付

嘶邦郎 24  
25

友田智代 26  
28

真田耕児 29  
32

増岡敏和 32  
35

喜連敏生 35

いづみ・こういち 36  
41

下島諄三 42  
43

44裏表紙裏

裏表紙

第三十二号 一九五七年七月十日 発行

表紙

もくじ

中表紙（\*吉本隆明の言葉）

新しい実行と計画

イヴ・モンタンのこと

「荷車の歌」の紹介 続

サークル誌紹介 I 「コスモスや雲や恥ずかしい事を書こう」

をめぐって（\*宇部「まきやぐら」） 島陽二

詩 唸る

女の手紙

初夏の歌

表紙裏

1

2  
3

4  
6

6  
7

8  
9

10

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

11

これよりいゝことが	山上博	12
自画像	古井誠三	12 / 13
とげをもつ麦	江上芳和	14
わが蛙族デュエット	つちかた	14 / 15
ひばりは舞いあがって	二木俊哉	16 / 17
蚊帳	ペン・のぼら	17
女は七駅一諸に	向井洋士	18
聖なる者へ	江口信幸	18 / 19
受贈誌紹介		19
詩 ある寡婦のうたえる―広島郊外のサナトリウム―	友田智代	20 / 22
基地	大野俊郎	22
首塚	かみなか・ゆうじ	23 / 24
おつとせいとゴム長靴	島陽二	24
作品研究（*西永くにお「河岸」）		
いずみ・こういち、堀久雄、嘶邦郎		25 / 27
31号作品評	山上博	28 / 31
アンケート（*第31号の補足）	32、35（裏表紙裏）	
お知らせ、ニュース		32
たより	江上芳和、向井洋士	33 / 34
へんしゆう室、奥付	裏表紙	

第三十三号 一九五七年八月九日 発行

表紙

表紙裏

中表紙（*原爆投下に関するの文章）		(1)
原爆詩特集		
まなつ	野崎京子	2
佇つ	山上博	3
証人I	島陽二	4
一九五七年夏	岩木典雄	4 / 5
げんばく	志摩園子	6
おまえこゝにいたのか	江上芳和	6 / 7
受贈誌紹介		5
（*案内）詩集出版について「川」第二集をつくろう		7
作品研究（*原民喜「ギラギラノ破片ヤ」）		
江上芳和、浜野千穂子		8 / 13、22
詩 原爆いろは歌	梶山アキノ	14 / 15
研究会で	八俣介一	16
出ッ歯	ペン・のぼら	16 / 17
農夫	江口信幸	17
雲	西永くにお	18
飯場の夕	大野俊郎	18
階段	いずみ・こういち	19
ニュース		19
詩 送り出した後から	向井洋士	20 / 21
骨	かみなが・ゆうじ	21 / 22
動く	嘶邦郎	23
お知らせ（*合評会、原稿〆切）		23
生活記録 自転車について	下島諄三	24 / 25
認識・想像―同人誌『水嶺』評―	増原正	26 / 29

三十二号作品評	貌の喪失	八俣介一	30
発言と近況	梶山アキノ、江口信幸、ペン・のぼら、 米田栄作、八符英子、喜連敏生、		34
編集後記		35 (裏表紙裏)	35
奥付		裏表紙	

第三十四号 一九五七年十月十日 発行

表紙			
目次		表紙裏	(1)
中表紙 (*鶴見俊輔の言葉)			
サークルにおける自我と集団性	島陽二		2
提案	山上博		7
サークル誌紹介 3 大衆と詩人 (*宇部「カヴェルネ」)	浜野チホ子		8
私の好きな詩人―山之口獏―	向井洋士		8
受贈誌紹介			11
詩 カンナ	国昭和昭		12
夜の食堂	国昭和昭		12
灯	佐々木稔		13
故郷の島にて	かわしま・たけし		14
わたしの傘はわたしだけのもの	江口信行		15
過ぎ去つた日	前崎E子		16
朝	嘶邦郎		17
村	山上博		18
母にわびる	江上芳和		19

戦争		島陽二	20
配電室のうた		真田耕児	21
釣師		増原正	22
S P E R M B A N K		浜野チホ子	22
フォト スタジオ		望月久	23

お知らせ (\*合評会、35号原稿〆切)

生活記録 山から	上川一生		24
生活記録 新婚ということ	下島諄三		26
傷痕について―原爆の詩を中心にして―	増原正		28
近況と発言 吉田元泰、森連敏生、あさだ・いしじ、			28
前田起久子、八符英子、副島和子、すえひろ			33
生活記録 「サークルのなかで」特集			33
みどりの中のわたし (*「緑の会について」八俣介一			34
サークルの中で (*「われらの詩」「われらのうた」を中心)	山上博		39
ニュース			41
編集室			43
(*案内) 詩同人『見る』発刊について、奥付		裏表紙	

第三十五号 一九五七年十二月一日 発行

表紙			
目次、財政の訴え、総会に集まろう		表紙裏 (1)	
生活記録への思考 (一)	山下磨玲		2
お知らせ (*合評会、原稿〆切)			3
サークル誌紹介 亡びざるもの (*茨城『詩群』)			

映画評 「純愛物語」―少年の行方を追って―	喜連敏生	4	6
散文詩 冬の木―工場で―	増岡敏和	7	9
詩 父よ	佐々木稔	10	11
鉛	西永くにお	11	11
冷え行く道	前崎E子	12	13
温地帯	嘶邦郎	13	13
釣り	高橋恒夫	14	14
野菊	フエアリ	14	15
電気屋のうた	真田耕児	16	17
砂丘	江上芳和	17	17
ある協調	山上博	18	19
葡萄	松井鉄泉	19	19
屋台店で	島陽二	20	20
K君の就職	案広	20	21
一枚の膜だけで	浜野チホ子	22	24
ペンキヤの登山	江口信幸	24	25
釣針のかたちで	望月久	25	25
受贈誌紹介		25	25
詩 鶏買い	増原正	26	26
(*案内) 第三回総会に集まろう		26	26
生活記録 なぎごと	下島諄三	27	28
ニュース		28	28
34号評		28	28
三十四号から―宛名のない手紙に―	古井誠三	29	33
サークル運動論者向きの論調	山上博	33	35

近況と報告	真田耕児、喜連敏生、勝矢ふみえ、友田智代、 前田起久子、松本志満江、阿部市次、品川万理、 前崎E子	36	裏表紙裏 (*39に相当)
編集後記		36	裏表紙裏 (*39に相当)
(*広告) 詩と評論『見る』、奥付			裏表紙
第三十六号 一九五八年三月一日 発行			
表紙			
目次			
中表紙 (*峠三吉「若樹」)			表紙裏
第三回総会の報告と問題提起			1
サークル運動に方法をあたえよう―総会経過報告―	編集部 (島陽二)	2	5
サークルの詩と集団―総会報告―	編集部 (増原正)	6	11
ニュース		11	11
詩 演説―K村派出所前で	かみなか・ゆうじ	12	12
橋上にて	嘶邦郎	12	12
長刀	織田敏夫	13	13
声―同志Sに―	山上博	14	15
元旦	西永くにお	16	16
道路工事	佐々木稔	17	17
洞窟の骸骨	浜野チホ子	17	17
未来	ペン・のぼら	18	18
おと	いずみ・こういち	19	19
悲しみの木から	高橋としこ	19	20

アドバルン 江口信幸 20  
ふいご 八符英子 21

受贈誌紹介 21

詩 ポーズをとる男 22

何のための詩サークルか 山上博 23  
28

(※案内) 八海事件の講演と映画 28

米田栄作訪問記―だれが広島証人になるうるか―

望月久、増原正、島陽二 (記録整理吉田まさ子) 29  
36

35号評 生活ということ 望月久 37  
39

たより 阿部市次、前田起久子、黒田一、八符英子、

向井洋士、大村収容所内大村朝鮮文学会編集部、

西永くにお、麻井比呂志、立石和正、佐々木也子、

前崎E子、品川万理、朝吹みね 39、(43) 裏表紙裏

編集後記、奥付 (43) 裏表紙裏

決定と訴え(※第三回総会の決定事項)、合評会等案内 裏表紙

### 第三十七号 一九五八年六月一日 発行

表紙

目次 表紙裏 1

中表紙 (※子供の詩)

特集・記録について

頭も尻尾もないこと 特に尻尾もないことI 四国五郎 2  
5

レンズになる―記録についてのノートI― 島陽二 6  
11

生活記録への思考(二) 山下磨玲 11  
12

記録とサークル―主として生活記録について

生活性をもった記録―「遭難」・「砂川」をめぐる 浜野千穂子 13  
16

詩 雲雀の焦躁 八俣介一 16  
18

パラド 西永くにお 18

男 山上博 19

霧の朝 前崎E子 20

腐敗した泥沼 嘶邦郎 20

駅前広場 織田敏夫 21

いつもの時刻に かみなか・ゆうじ 22

確定申告 高橋恒夫 22

プレヴェール詩集―望月久に ペン・のぼら 23  
24

ヘリポート附近 望月久 24  
25

原爆病院にて いずみ・こういち 25

肩 大野俊郎 26  
27

春風 フェアリー 27

寺院／エスカレーター 増原正 28

蘇る 島陽二 28

受贈誌紹介 前崎E子 29

生活記録 ある会話から 30  
31

お願い(※生活記録の投稿呼びかけ) 31

作者の姿勢―島陽二の新人賞入選にあたって― 山上博 32  
33

36号合評(※合評会記録) 記録 嘶邦郎 34  
37

作者の意見(※36号評に対して) 34  
36

38号の原稿募集と予告、ニュース 西永くにお、かみながゆうじ、山上博 34  
36

37

たより 前崎E子、大野俊郎、西永くにお、山上博、

川本智、上中ゆうじ、江口信幸

38  
39

編集後記

お知らせ（\*合評会、第二回職場を語る会）

裏表紙裏（41）

（\*広告）テラー田中屋

裏表紙

第三十八号 一九五八年九月十日 発行

表紙

目次

中表紙（\*吉塚勤治の言葉）

詩 ある形骸

嘔吐

転進

少女

父の形見

血液銀行

Teeth and Teeth

水は流るる

利得

木と生活のあいだ

待つという矛盾の中で

記録特集・八月六日から十五日まで

短い記憶

疎開村へ逃げる

六日

島陽二

八俣介一

かみなか・ゆうじ

八符英子

前崎E子

大野俊郎

江口信幸

フェアリー

ペン・のぼら

喜連敏生

山上博

増原正

八俣介一

いずみ・こういち

表紙裏

1

2

3  
4

4  
5

5

6

7  
8

8

8

8

9

9  
10

10  
11

12  
13

14  
16

16  
18

診療所にて

ぞうり履きの看護女学生

蠅

悲痛記

転進

六日から十日まで

丸腰の見習士官

一つきりの「オリオン座」

記録特集について

37号作品評

たより 西永くにお、藤内博章、大野俊郎、山上博、

高橋天、赤木里枝、清水高典、八符英子、

前崎E子、増岡敏和

受贈誌紹介

消息

編集後記

（\*案内）合評会、第3回職場を語る会、原稿〆切

\*奥付なし

第三十九号 一九五八年十二月五日 発行

表紙

目次

中表紙（\*われらのうたの会「われられは声明する」）

村からの報告（1） 顔麿

進退覚え書 その一

友田智代 18  
21

黒田愛子 21  
23

嘶邦郎 23  
25

泉秀子 25  
27

峠和子 27  
30

四国五郎 31  
33

ペン・のぼら 33  
34

品川萬里 34  
36

編集部 36

島陽二 37  
39

40  
42

42

裏表紙裏（43）

裏表紙裏（43）

裏表紙

裏表紙

表紙裏

1

2  
9

9  
14

特集・そのとき十五才だった

詩 黄色い朝鮮牛 山上博 15  
16

15才のおまへもおれも 上川一生 16  
17

人生における四年間のブランク 前崎E子 17

見ようとする 島陽二 18

丁稚と兵隊 望月久 19

そのとき（映画館にて／家庭にて／学校にて）

神の子と少年 喜連敏生 20

一五のうた 江口信幸 21

記録 日記断片 友田智代 22  
25

空腹で見る夢 上中ゆうじ 26  
28

詩 風景 嘶邦郎 29  
30

雲 赤木星枝 30

「ように」について 西永くにお 31  
32

詩 平行線 喜連敏生 31  
34

夜の汽車 木曾井文子 33  
34

顔 佐々木みゆる 35

38号作品評 はずみ・こういち 35

（\*お願い）やさしい字をつかおう 下島諄三 36  
46

続・記録特集 四国五郎 47  
49

頭も尻尾もないこと 増原正 50  
58

事実をとりだす―生活記録批判―

受贈誌紹介、ニュース

たより 高橋恒夫、喜連敏生、増岡敏和、柴田杜代、吉田元春、

赤木里枝、木曾井文子（\*フエアリー改め）、織田敏夫、

前崎幸子、山上博、二木俊哉、江口信幸 59  
62

お知らせ（\*合評会）

編集後記、奥付 裏表紙裏（63）

（\*広告）限定版峠三吉『原爆詩集』、平和書房 裏表紙

第四十号 一九五九年三月十五日 発行

表紙 表紙裏

目次

中表紙（\*第四回総会の訴え） 1

特集・はじめて働いたとき 高橋恒夫 2

詩 適性 島陽二 2  
3

石鹼売り かげろうのように消えた子供の手 望月久 4

記録 精紡機と女子寮の間で 石見みほ 5  
9

日給三十五銭 林邦郎 10  
11

詩 死ぬる はずみ・こういち 12

大きな夢 小さな夢 江口信幸 12  
13

山茶花の咲く道 木曾井文子 13  
14

村からの報告（2） 利己 山上博 15  
26

受贈誌紹介

お詫び（\*39号、乱丁、落丁について）

39号作品評―特に「そのとき十五才だった」について―

八俣介一 27  
30

たより 品川万理、高橋恒夫、藤内博章、増岡頼子、山上博

30

編集後記

裏表紙裏 (31)

ニュース、第四回総会、告知板 (\*合評会、原稿〆切)、奥付

裏表紙

第四十一号 一九五九年五月十日 発行

表紙

目次

第四回総会報告 新しいサークルの動脈

編集部

表紙裏

総会への提案

山上博

1・12

総会に思う

高橋恒夫

13

詩 猫/湿疹

増原正

14

贈られた氷

浜野千穂子

14・15

八重ツバキ

前崎E子

15

砂利

西永くにお

16・17

プロフィール 西永くにお

増原正

16・17

詩 五月のうたのために

喜連敏生

18・19

あぶくになる五月

島陽二

19

ノスタルジア

山上博

20・22

Kのこと

林邦郎

22・23

はじめての歌

八俣介一

23・24

信仰

いずみ・こういち

25・27

受贈雑誌紹介

40号を読んで—とくに特集のテーマについて—

浜野千穂子

28・31

ニュース

31

たより 小川秋水、前崎幸子、前田起久子、藤内博章、江口信幸、

宮井隆光、高橋恒夫、荏原肆夫

32・33 (裏表紙裏)

編集室

33 (裏表紙裏)

(\*広告) かみなか・ゆうじ第一詩集『空洞』、

お知らせ (\*峠三吉研究会、合評会、原稿〆切)、奥付 裏表紙

第四十二号 一九五九年七月二十日 発行

表紙

目次

8・6世界大会に集ろう

編集部

表紙裏

特集 続・はじめて働いたとき

詩 ガラスの咲くの中で

高橋恒夫

3・4

要注意者

記録 精紡機と女子寮の間で

島陽二

4・5

失う

ニュース

石見みほ

6・9

峠三吉研究会について

(\*広告) かみなか・ゆうじ『空洞』

西永くにお

10・11

詩 蛇身

害虫

増原正

12・13

プロフィール 石見みほ

詩 サルの擬態

山上博

14

六月

事故

堀久雄

15

増原正

島陽二

16・17

望月久

江口信幸

17

18

散歩	西永くにお	18
盗む	いずみ・こういち	19・21
受贈誌紹介		21
批評の不在―41号を読んで	浜野千穂子	22・25、27
地方より	友田智代、八符英子、川本智、京田明子	
	前田起久子、高橋恒夫	26・27 (裏表紙裏)
41号お詫び、お知らせ (*合評会、原稿不切、峠研究会)		27 (裏表紙裏)
へんしゆう室、奥付		裏表紙

第四十三号 一九五九年八月 発行

表紙		
目次		
ルポルタージュ 原水爆禁止世界大会		
あるいてきた八月六日		
行進の歩調のなかで	望月久	1・3
平和を作り出すひとたち	いずみ・こういち	3・5
日常へ このエネルギーを	浜野千穂子	6・8
(*広告) 深川宗俊歌集『広島』		5
詩 わたしは見た	山上博	9・10
墓地にて	江口信幸	11・12
古墳	高橋恒夫	12・13
事実	島陽二	13・14
(*広告) 米田栄作編詩集『広島』		14
歌集「広島」を読んで	望月久	15

詩集「広島」について	増原正	16
『原爆詩集』試論	島陽二	18・26
受贈誌紹介		25
批評の連帯性―42号を読んで―	浜野千穂子	27・30
たより	山上博、三苦伸輔、友田智代、江口信幸、	31・32
(*広告) かみなが・ゆうじ詩集『空洞』		32
編集部より、ニュース		33 (裏表紙裏)
へんしゆう室、お知らせ (*合評会、原稿不切、峠研究会)		裏表紙
*奥付なし、発行日不明		

第四十四号 一九五九年十一月三十日 発行

表紙		
もくじ		
かみなが・ゆうじ詩集「空洞」をめぐって	林邦郎	2・4
かみなが・ゆうじは再び詩を書くか	かみなが・ゆうじ	5・7
わが詩集のために	西永くにお	8
詩 かがし	江口信幸	8
恋唄	喜連敏生	9
野戦	友田智代	9・10
明月	山上博	11
秋	島陽二	11・12
雲	かみなが・ゆうじ	12
喪章―わたしの青春―	高橋恒夫	13
ある時刻		

防風林

いづみ・こういち

13 | 14

受贈誌紹介

村からの報告Ⅲ 自恃と不安の中で

15 | 18

プロフィール 泉秀子

望月久

15 | 16

あまりにも日常的―山上博への手紙―

八俣介一

19 | 20、18

企業合理化の意識

下畠諄三

21 | 22

詩の無力についてⅠ

増原正

23 | 24

たより 友田智代、前崎E子、江口信幸、増岡頼子、

高橋恒夫、無名、古井誠三

25 | 27

ニュース

次号について、お知らせ（\*合評会、原稿〆切等）、奥付

27

へんしゅうしつ

28 (裏表紙裏)

裏表紙

第四十五号 一九六〇年三月一日 発行

表紙

目次

特集・労働組合とわたし

さいしよの団交

八俣介一

1 | 5

企業合理化と労働組合―全電通労組の場合―

(\*詩「電話とストライキ」付き)

増原正

6 | 13

零細企業労働者のイメージ

喜連敏生

14 | 15

分会長の周辺―選挙―

下畠諄三

16 | 18

46号予告

13

ニュース

18

詩 一月の歌

ある朝

赤木里枝

19

責任

西永くにお

20

独房

江口信幸

20 | 21

月

いづみ・こういち

21

胃を切る

浜野チホ子

21

成仏

林邦郎

22 | 23

怒らぬ若者たち

麻井比呂志

23

ある凌辱

島陽二

23 | 24

受贈誌紹介

友田智代

24 | 27

たより 赤木里枝、山上博、吉田元春、泉秀子、

友田智代、二木俊哉、中村康治、高橋恒夫、

蟬本重男、林たもつ、山上博

28 | 29

八俣介一へ

山上博

30

(\*案内)、合評会、原稿〆切

表紙絵について

四国五郎

31 (裏表紙裏)

へんしゅうしつ

31 (裏表紙裏)

\*奥付なし

第四十六号 一九六〇年四月 発行

表紙

目次

村からの報告Ⅳ―不正について―

山上博

1 | 17、33

ニュース

8

受贈誌

11

お知らせ（\*合評会、原稿〆切）  
詩 いつかは きつと

春

ねがい

コネ

年々歳々

風邪

純白の小犬

町には人が

一九六〇年の春

特集・労働組合とわたし（Ⅱ）

わたしの職場

分会長の周辺―選挙・続―

45号評

プロフィール 八俣介一

たより 荏原肆夫、政田峯生、喜連敏生、高橋恒夫、  
西永くにお、山中みち子、「思想の科学」

へんしゆう室

\*奥付なし、発行日不明

喜連敏生

麻井比呂志

北島和子

ペン・のぼら

江口信幸

林邦雄

堀久雄

島陽二

増原正

山中みちこ

下島諄三

増原正

望月久

33 (裏表紙裏)

日蔭者

敗れる

帰路

美容室にて

祝婚歌

流れている

黒い車輪

ベルトコンベア（\*エッセイ）

或る週末

「暴力」とはなにか

ある失言から

ニユース

労働組合とわたし

分会長の周辺 ある報告

46号批評

異母兄弟（\*プロフィール改題）

受贈誌紹介

たより 政田峯生、山上博、高橋恒夫、友田智代

お知らせ（\*合評会、作品〆切）

表紙絵について

「広島県詩集第二集」募集要項

編集室、奥付

堀久雄

望月久

北島和子

山中みち子

島陽二

浜野チホ子

友田智代

いずみ・こういち

太郎

次郎

下島諄三

林邦雄・増原正

前崎E子について

山上博

四国五郎

裏表紙裏

30

30

29

28

27

24

24

22

22

第四十八号 一九六〇年八月二十日 発行

詩 賭ける

江口信幸

2  
3

表紙

表紙裏

中表紙（\*引用不明）

1

第四十七号 一九六〇年六月十五日 発行

表紙

目次

原水爆と文学

ベルト・コンベア（\*エッセイ）

秩序整然と

抵抗

職場大会—安保阻止闘争のなかから—

詩 夏

百貨店

都市独立

暑い倉庫

七月の空の下で

棄民船にて

これはと問う

労働組合とわたし

曲がり角に来た書記

異母兄弟 山中みち子

詩劇 夜は消える

カンパのおねがい

ニュース

表紙絵について 「若者たち」

たより 山上博、喜連敏生、友田智代、

高橋恒夫、古井誠三、蟬本繁男、

編集後記、受贈誌紹介

奥付

浜野チホ子

喜連敏生

いずみ・こういち

増原正

高橋恒夫

山中みち子

麻井比呂志

林邦郎

北島和子

山上博

喜連敏生

川本佳子

喜連敏生

島陽二

四国五郎

37

裏表紙裏

35

36

34

31

29

25

22

22

22

21

18

表紙裏

第四十九号 一九六〇年十一月 発行

表紙

目次

遠くになつてゐる広島

ベルトコンベア（\*エッセイ）

安保改定闘争 ぼくの場合

一銭から一円へ

公判について

電波にのつた連中

詩 あおい空

蝮 働いて

文明

秋

表紙絵について

詩 悔蔑について

わたしはパセリ

あざみ

特集・労働組合と私（IV）

ゼロにならないために

数年の歴史のなかで

50号を迎えるにあたって

たより 高橋恒夫、喜連敏生、山上博、友田智代

編集室

浜野チホ子

八俣介一

喜連敏生

泉秀子

下島諄三

島陽二

山上博

喜連敏生

堀博自

北島わか

四国五郎

増原正

谷川ひろみ

谷川ひろみ

はやみ・ちかこ

児島功

23

22

20

18

18

18

17

16

14

12

10

8

表紙裏

1

4

5

6

6

8

10

11

13

15

16

17

19

19

21

22

22

26

26

29

29

31

31

32

\*裏表紙裏以降、印刷なし

第五十号 一九六一年一月二十日 発行

表紙

目次

表紙について

サークルの自立論

お知らせ(\*合評会、原稿 $\cancel{\text{A}}$ 切)

詩 作品

冬

胎児

報告

牧師見舞い

街人

かみそり

印刷屋のうた

だから ぼくは

セールスマンのうた―宮島にて―

弱者は死ね

バラードII

特集・労働組合とわたし(\*シリーズ第五回)

下積みのプリズム―ある書記のものがたり―

沈黙の代償

山中みちこ詩集「はいづみ」評

四国五郎

増原正

四国五郎

高橋恒夫

浜野チホ子

堀博自

いづみ・こういち

江口信幸

新宅正雄

西永くにお

喜連敏生

友田智代

望月久

山上博

那戸井素也

北上浩二

望月久

表紙裏

表紙裏

1 3

4 5

6 7

8 9

10 11

12 13

14

15

16 17

18 19

20 21

22 23

24 25

26 27

38 39

40 41

編集室、シャンソンの創作の呼びかけ

ニュース、受贈誌

奥付

第五十一号 一九六一年四月十五日 発行

表紙

目次、お知らせ(\*合評会、原稿 $\cancel{\text{A}}$ 切)、受贈誌

村からの報告V 貧しさについて

愛の認証

ある始まり

雲

春

小学三年生

胡子講

たたかい

凝集体としての作品―五十号評―

たより

ニュース

日記(\*三月一六日、合評会について)

表紙のことば

編集室、奥付

表紙裏

表紙裏

1 13

14 15

16 17

18 19

20 21

22 23

24 25

26 27

28 29

30

31

32

32

裏表紙裏

第五十二号 一九六一年八月一日 発行

表紙

43 (裏表紙裏)

裏表紙

42

目次

詩	火を囲む女たち	上田寿美子	1	5	表紙裏
	方角	友田智代	6	7	
	看護人のうた	泉京子	8	9	
	昼	山中みちこ	10	11	
	少年	堀博自	12	13	
	いない・いない・ばあ	望月久	14	15	
	五体	高橋恒夫	16	17	
	やつかいな死者たち	江口信幸	18	19	
	ベルトコンベア (*エッセイ)				
記憶		いずみこういち	20	21、25	
	ある夏の日に	喜連敏生	22	25	
たより		山上博、中尾秋光	24		
ニュース		増原正	26	30	
	山上博ノート (その一)	四国五郎	30		
	表紙絵の言葉	浜野チホ子	31	35	
	ヒロシマをとらえる—文学の姿勢—	浜野 ( *名字のみ )	35		
	ノートから		35		
編集室			36		
	お知らせ (*合評会、原稿不切、高旗宏詩集出版記念会)、奥付				
	( *広告 ) 高旗宏詩集『都市が消える時』、山中みちこ詩集『はいづみ』	裏表紙裏 (37)			
		裏表紙			

表紙

特集	研究会報告 現代詩について—講座「現代詩」Iより—				
	詩と内部の世界について—黒田三郎／内部と外部の世界—	高橋恒夫	1	4	
	現代詩の回復のために—鮎川信夫／詩とは何か—	北島和子	5	7	
	反抗の支点—谷川雁／詩と政治の関係—	北上浩二	8	10	
	( *案内 ) 合評会、原稿不切、受贈誌				
	ベルトコンベア (*エッセイ)				
	旅行と私	喜連敏生	10	12	
	核実験再開	いずみこういち	13	15	
	表紙絵の言葉	四国五郎	15		
詩	ある罪	山上博	16	19	
	基地で	ほり・ひろし	20	21	
	カンパについて	増原正	22	23	
	九月	西永くにお	24	25	
	馬	山中みちこ	26	27	
	潰瘍／秋	望月久	28	29	
	ひろば	泉秀子、喜連敏生	30	31	
	ニュース		31		
	山上博ノート (その2)	増原正	32	34	
	サークルについて	浜野チホ子	35	36	
編集室			36		
奥付					
		裏表紙裏			

第五十四号 一九六二年五月二十日 発行

表紙 目次 表紙裏 表紙裏 表紙裏 表紙裏

表紙の言葉 四国五郎 表紙裏

村からの報告―革命について― 山上博 1・15

編集室 望月久 16・17

詩 寒中水泳 北島和子 18・19

無題 島陽二 20・22

手錠のある空 喜連敏生 22・23

遠く近く 増原正 24・25

媚びる 父の死 26・28

父の死 いづみこういち 28・29

伝説 下島諄三 30・33 (裏表紙裏)

「増岡敏和詩集」評 増原正 33 (裏表紙裏)

受贈誌、お知らせ 33 (裏表紙裏)

(\*広告) 増岡敏和詩集『戦いと挨拶』、奥付 裏表紙

第五十五号 一九六二年十月三十日 発行

表紙 (\*印刷なし) 表紙裏

目次 (1)

詩 阿呆な孤独者 北島和子 2・6

夏のあと 喜連敏生 7・9

挽歌 島陽二 10・13

選挙 増原正 14・15

兇器について 高橋恒夫 16・17

枯れた港 望月久 18・19

詩との出会い

① 私と詩の関係というならば 北島和子 20・23

② 詩と生活のはじまり 喜連敏生 24・26

ベルト・コンベア (\*エッセイ) いづみ・こういち 27・28

何もかもいやになる 下島諄三 28・29

おぼえがき 30

ニュース、編集後記 裏表紙裏

表紙絵のこと、(\*連絡) 合評会、奥付

第五十六号 一九六三年六月十日 発行

表紙 (\*印刷なし) 表紙裏

目次

村からの報告―生活について― 山上博 2・8

ベルトコンベア (\*エッセイ) 下島諄三 8・9

おぼえがきII 高橋恒夫 10・11

パスポート 江口信幸 12

詩と生活 山上博 13

杞憂について 島陽二 14・16

受贈誌紹介 喜連敏生 17・19

冬 傲慢な朝 13

ある日 ある時 14

ある日 ある時 17

ある日 ある時 20

ある日 ある時 21

死	何かが	濱野チホコ	22
「峠三吉」私観		北島和子	24
峠三吉詩碑建設のためのお願ひ（*峠三吉詩碑建設委員会、		増原正	26
平和のための広島県文化会議）			35
ニュース、編集後記			36
表紙絵の言葉	四国五郎		37
合評会、原稿不切、奥付			37
			（裏表紙裏）
			（裏表紙裏）